

生活科との関連;あきを さがそう

1年	単元名	しらせたいな 見せたいな	3時間
単元の目標	○書こうとする題材に必要な事項をよく観察し、語と語や文と文の書き方に気をつけて書くことができる。 ○句読点を正しく使って文章を書くことができる。 ○書いた文章を読み返す習慣をつけ、間違いを直すことができる。		
日本語の目標	○書き出しの文章を考える。 ○様子を表す語彙、使える表現の方法を増やす。 ○「何が」「どこが」という主語を意識させる。		
学習課題	○「ぼくの～」「わたしの～」を使って自分だけが知っているものを先生や友達に教えてあげよう。 ○知らせたいものをよく観察して様子がよく分かるように書こう。		
主な学習活動	① 様子を表す言葉集め、ゲームをする。 ② 家の周りで書きたい「秋のもの」を見つけ、その様子を表す言葉を集める。 ③ 絵やメモを見ながら文章を書く。		

学習活動計画

時	内容	活動	ポイント
1	課題をつかむ	<u>様子を表す言葉をさがそう</u> ① 教科書のワーク1を参考に、「様子を表す言葉」を集める。 ② 「様子を表す言葉」を使った言葉遊びをする。 ・様子を表す言葉をカードに書く。 ・主語になる言葉「だれが」「なにが」をカードに書く。 ・主語と様子を表す言葉をランダムに組み合わせでどんな文ができるかを楽しむ。 ③ 絵と言葉のメモの作り方を確認する。 ・メモを書くときどんなことが分かるか、どんなところがいいかを考えて発表する。	・「様子を表す言葉」に関心を持たせる。 ・「見つけたものをみんなに教えてあげよう」ということで意欲を持たせる。
	家庭学習	・家の周りで「秋のもの」を探して教科書のような絵と言葉のメモを書く。可能なら実物を学校に持ってくる。	・必要な場合は家庭での援助をお願いする。
2	課題にとりくむ	<u>見つけたものを知らせよう</u> ① 絵と言葉のメモを見ながら短冊に文を書く。 ・一つの短冊に主語と「様子を表す言葉」のある一文を書く。 ・余裕のある児童には、実物を見てメモにない表現も考えさせる。 ② 実物を見せながら短冊に書いた文を発表する。 ・上手に言葉を選んでいる文の良さを確認し合う。 ③ 短冊を参考にしながら見つけたものを知らせる文章を書く。 ・最初の文は「ぼくは～」「わたしは～」(「ぼくの～」「わたしの～」でもよい)で書き始めるようにする。 ・短冊の文を書き写しても、新しい文を書いてもよい。	・「何が」「どこが」という主語を意識させる。 ・特徴がよく分かる言葉を選んでるか確認する。 ・「見つけたものがみんなによく分かるように」という目的を意識させる。
	家庭学習	・文章が書き終わらなかった場合は完成させてくる。	
3	成果の確認	<u>発表会をしよう</u> ① 書いてきた文章を声に出して読む練習をする。 ・ペアになって聞き合う。 ② 発表会をする。 ・みんなに聞こえるようにはっきりと読む。 ・上手なところ、がんばったところを認め合う。	・お互いの文章のよいところをほめ、次への書く意欲につなげるようにする。
	家庭学習	・家庭で「発表会」をしておうちの人に聞いてもらう。	